

[番組名]群馬テレビ「ビジネスジャーナル」

[放送日]2016年10月14日

[テーマ]日銀短観でみる県内経済の足取り

(キャスター) 『プラスオピニオン』のコーナーは日本銀行前橋支店長の神山一成さんに『日銀短観でみる県内経済の足取り』というテーマでお話をうかがいます。よろしくお願いします。

(神山支店長) よろしくお願ひします。日本銀行では、10月3日に「企業短期経済観測調査」——いわゆる日銀短観——を公表しました。

本日は日銀短観から読み取れる、県内経済の足取りについてご説明したいと思います。

まずは業況判断D.I.の推移をご覧下さい。



(神山支店長) 業況判断D.I.は、景気が「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を引いた値です。「良い」と答えた企業が「悪い」と答えた企業よりも多ければ数値はプラス、少なければマイナスとなります。

群馬県の業況判断D.I.は、前回プラス3から5ポイント悪化し、今回9月調査ではマイナス2となりました。D.I.のマイナスは2013年3月以来、14期振りとなります。

(神山支店長) 一方、全国は、前回プラス4から1ポイント改善し、今回はプラス5となりました。

なお、先行き12月は、群馬県がプラス3、全国がプラス2と、群馬県が改善する一方、全国は悪化する見通しとなっています。

それでは、製造業と非製造業に分けてみていきたいと思います。

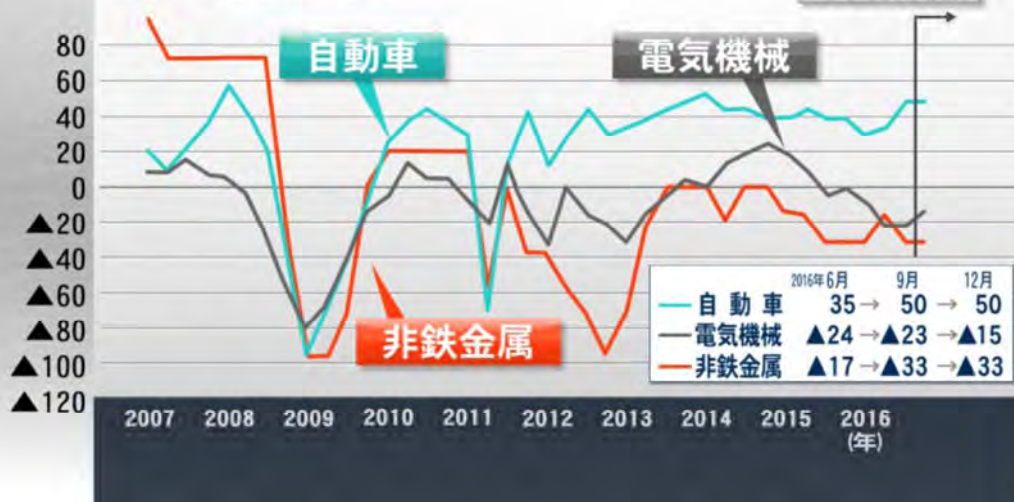
次のフリップをご覧ください。



(神山支店長) まず、製造業です。群馬県は、今回9月調査ではマイナス2と、前回調査と同じD.I.となりました。先行き12月はプラス4に改善する見通しです。

業況判断D.I. (自動車、電気機械、非鉄金属)

(「良い」-「悪い」、%ポイント)



(神山支店長) 製造業をさらに分けてみていきますと、当地主力の自動車は、今回9月調査ではプラス35からプラス50へとプラス幅が一段と拡大しています。また、電気機械は、今回はマイナス23、先行きはマイナス15へとマイナス幅が縮小する見通しになっています。一方、非鉄金属は今回マイナス17からマイナス33へとマイナス幅が大きく拡大しました。

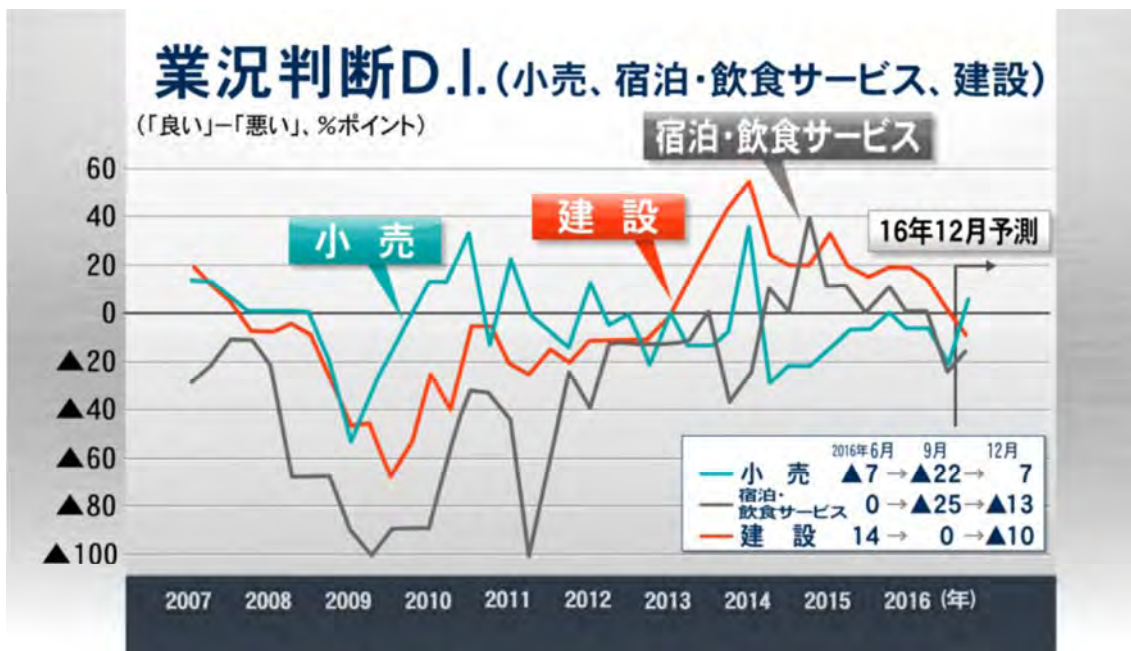
9月短観のポイント (製造業)

- ① 北米向け自動車輸出の好調持続
- ② IT関連需要の一部が持ち直し
- ③ 為替円高の進行

(神山支店長) 当地主力の自動車は、北米向け輸出が好調であり、業況判断が一段と改善しています。また、電気機械も、IT関連需要が新型スマートフォン向けなど一部で持ち直していることから、先行き12月にかけて業況判断が改善する見通しとなっています。一方、非鉄金属では、為替円高の進行によって国際競争力が低下している中、同業他社との競合も激しくなっており、判断が悪化しています。



(神山支店長) 次に、非製造業です。群馬県は前回プラス7から大きく悪化し、今回9月調査ではマイナス1となりました。先行き12月はプラス1と小幅改善する見通しです。



(神山支店長) 非製造業についてもさらに分けてみていきますと、今回、小売がマイナス7からマイナス22に、宿泊・飲食サービスも0からマイナス25に、それぞれ悪化し、大幅なマイナスとなりましたが、先行き12月はいずれも改善する見通しとなっています。建設は前回プラス14から今回は0、先行きはマイナス10と、大幅な悪化を続ける見通しとなっています。

9月短観のポイント (非製造業)

- ① 天候不順の影響**
- ② 低価格志向・
節約志向の強まり**
- ③ 中小建設業者を中心に
工事量が減少**

(神山支店長) 小売、宿泊・飲食サービスでは、台風など天候不順の影響から客足が鈍り、売上が減少したという声が多く聞かれています。また、消費者の低価格志向や節約志向の強まりを指摘する声も聞かれました。建設では、公共工事の減少から工事量の確保が難しいとの声が中小建設業者を中心に聞かれています。

(キャスター) 日本銀行が金融緩和を強化したことの好影響は、今回の短観でも確認できたのでしょうか。

(神山支店長) 金融機関の貸出態度判断D.I.の推移をご覧ください。金融機関の貸出態度判断D.I.は、金融機関の貸出態度が「緩い」と答えた企業の割合から「厳しい」と答えた企業の割合を引いた値です。「緩い」と答えた企業が「厳しい」と答えた企業よりも多ければ数値はプラス、少なければマイナスとなります。

この指標により、企業サイドから金融機関の貸出スタンスがどのように評価されているかを確認することができます。



(神山支店長) 金融機関の貸出態度判断D.I.は、昨年後半に改善の動きが足踏み気味となっていたのですが、本年に入ってから、日本銀行による「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」のもとで、県内金融機関の融資スタンスがより積極的なものとなっていることを反映して、「緩い」超幅が一段と拡大する動きとなっています。

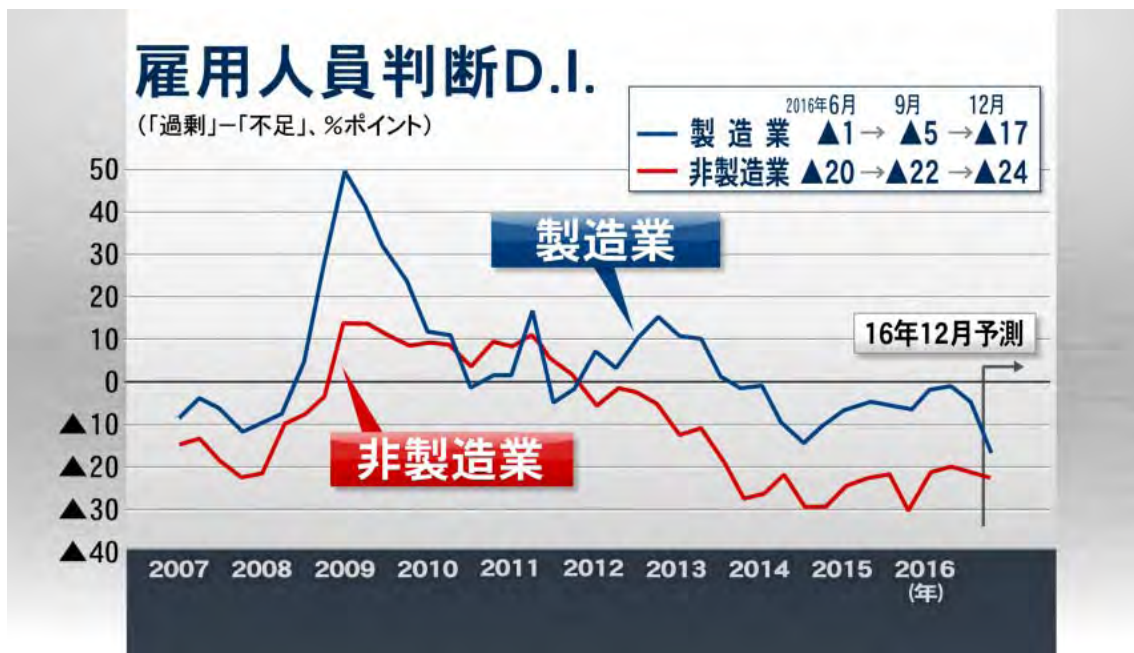
(キャスター) 企業の事業計画については、どのようになっていますか。

事業計画(設備投資)					前年度比、%
	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	前回調査比 修正率
全産業	4.5	7.5	▲ 2.4	7.8	▲ 2.0
製造業	0.6	21.2	1.6	21.1	▲ 3.7
非製造業	12.2	▲14.4	▲11.4	▲25.8	5.6

(神山支店長) 2016年度の全産業の設備投資計画は、前回6月調査から若干下方修正されました。それでも、前年をはっきりと上回る計画であることには変わりありません。非製造業では、全国展開している企業において個人消費がもたついている地域での出店を絞り込む動きや、人手不足から新規出店を取り止め、既存店のリニューアルにとどめる動きなどがみられますが、製造業では、自動車関連を中心に、生産性の引き上げを狙った機械等の維持更新投資や省人化等の効率化投資を加速させる先が少なくないことから、大幅に増加しています。

(キャスター) 今回、設備投資計画は、なぜ下方修正されたのでしょうか。

(神山支店長) 決して企業の設備投資スタンスが後退している訳ではないとみています。次のフリップをご覧ください。



(神山支店長) 雇用人員判断D.I.は、雇用人員が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を引いた値です。この値がマイナスになっているということは、「不足」と答えた企業が「過剰」と答える企業よりも多いことを表しており、マイナスの値が大きいほど人員不足が著しいこととなります。

群馬県の雇用人員判断D.I.をみますと、今回9月調査では、製造業はマイナス5、非製造業はマイナス22となり、先行き12月もマイナス幅、すなわち「不足」の度合いがさらに拡大する見通しとなっています。このような中、設備投資の進捗にも遅れが生じており、今年度中にどうしても消化できない分を翌年度以降に先送りしたことが、今回の下方修正に繋がったようです。

(キャスター) その他の事業計画については、どのようになっていますか。

想定為替レートと収益計画

円/ドル

	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	前回調査比
想定為替レート (製造業)	99.42	108.11	120.33	105.85	▲4.08

前年度比、%

	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	前回調査比 修正率
売上高 (全産業)	10.9	1.0	0.7	▲0.6	▲0.8
経常利益 (全産業)	9.5	1.6	7.3	4.6	0.6

(神山支店長) 前回調査との対比で製造業企業の想定為替レートが円高方向に修正されたことにより2016年度の売上高は小幅に下方修正され、前年をごく小幅ながら下回る計画となっています。一方、経常利益については、むしろ上方修正され、前年度比ははっきりと増加する計画となっています。

想定為替レートについては足もとの為替レート水準と比較すると、なお若干乖離していますので、今後の為替動向とその事業計画等への影響等については注意深く見ていきたいと思えます。

(キャスター) 本日は、『日銀短観でみる県内経済の足取り』をテーマに、お話をうかがいました。ありがとうございました。

以 上